



【さんぺい武後援会ニュース】

未来へとどけ！ エコシティ ひたちなか

発行 NO.65

発行日：2024年10月7日

発行者：さんぺい武後援会

住所：ひたちなか市市毛1077

電話：029-273-6826

第16回 後援会総会を開催

第16回さんぺい武後援会総会を、7月29日（月）午後5時30分から日立労組水戸支部会館で行いました。当日は、ご支援をいただいている団体・労組・OBの方々や水戸事業所の各職場から約100名のご来場をいただくとともに、リモート参加併用での開催とし、多くの皆様にご参加をいただき、近内後援会会長挨拶や後援会の経過報告と活動方針を確認していただきました。

また、「さんぺい武」より議会での活動内容や令和6年度の市予算概要と重点施策、要望事項への対応などを含めた市政報告を行い、盛会に開催出来ました。



御礼の挨拶をする「さんぺい武」



近内後援会会長挨拶



多くの方々のご参加、ありがとうございました。



市政報告を行う

【9月定例議会】

令和6年度第4回ひたちなか市議会9月定例議会が、9月3日から25日間にわたり開催されました。本定例議会では、9件の報告案件説明と令和5年度の一般会計と特別会計を合わせた17件の決算認定議案、令和6年度一般会計補正予算と条例の改正など15件の議案を審議し、全案件を原案の通り可決成立しました。

今回は、令和5年度の決算と令和6年度一般会計補正予算の概要、その他トピックスについて報告します。

令和5年度決算について

令和5年度の当初は、一般会計及び14の特別会計を合計して898億9,521万6千円の歳出予算を計上し、雨水幹線整備や河川改修、土地区画整理事業、高場陸橋の4車線化など、安全安心なまちづくりに必要な都市基盤の整備に加え、令和4年度から佐和駅自由通路・新駅舎整備事業や新型コロナウイルスワクチン接種など51億9,096万2千円の予算を繰越すとともに、原油価格・物価高騰総合緊急対策や防災・減災、国土強靱化の編成を柱にした、国の補正予算への対応に伴い、8回の補正予算を編成した結果、一般会計及び特別会計を合計して992億95万8千円の歳入歳出予算に対し、令和5年度の決算額は、歳入総額960億5,319万8千円、歳出総額918億6,639万9千円になりました。

<一般会計>歳入：642億1,054万7千円

(前年比4.3%増)

歳出：615億9,337万4千円

(前年比6.5%増)

<特別会計>歳入：318億4,265万1千円

(前年比1.9%増)

歳出：302億7,302万5千円

(前年比1.1%増)

[水道事業会計、下水道事業会計を除く]

9月定例議会の会期中に決算委員会は9月18日～25日まで開催され、令和5年度各会計の決算議案17件が付託されました。私が所属する日新クラブでは、歳入について企業誘致や産業振興の推進、公共施設の有効活用など、自主財源の確保を推進するとともに、様々な収納対策を講じること。歳出では、少子高齢化の進展にともなう社会保障関連経費が増加し厳しい状況が続く中で、効率的かつ効果的な事業を進めること。また、子育て世代へのサポート体制の充実や高齢者等の買い物支援の充実など、より一層のサービスの向上と環境の整備を進めることなどを要望して、認定することに賛成しました。

令和6年度一般会計予算に1,775万5千円を増額補正し、総額は622億2,228万9千円 **主な補正内容**

1. 民生費

- (1) 介護保険事業会計繰出金 --- +157万4千円
(令和7年度より介護認定審査会委員の増員に伴い、タブレット端末等の整備にかかる事務費のため介護保険事業会計繰出金を増額する)
- (2) 地域密着型サービス施設整備事業費補助金 --- +1,485万円
(令和6年度に新たに開設する「小規模多機能型介護事業所」に対する補助金)

2. 教育費

- (1) 地域スポーツクラブ活動体制整備事業委託料 --- +133万1千円
(中学生の運動部活動の地域移行に向けた実証事業の実施にあたり、NPO 法人と委託契約を結ぶ)



トピックス ひたちなか市の治水「田彦小学校雨水貯留施設」完成

ひたちなか市では、平成28年8月の大雨により浸水被害が発生したことから、「中丸川流域における浸水被害軽減プラン」を作成し、治水対策を推進しています。その治水対策の一つとして、田彦小学校のグラウンドに雨水貯留施設を整備しました。

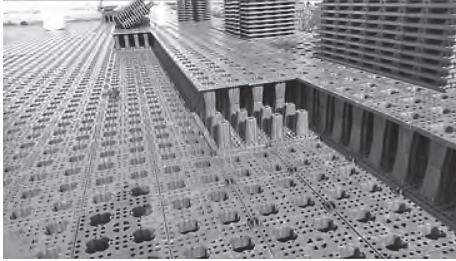
雨水貯留施設は、集中豪雨のような短時間に大雨が降った時にグラウンドの地下にタンクのような役割を果たす貯留施設を造って、学校の周りに降った雨を一度地下に貯めて、下流の水路に少しずつ流す施設です。令和6年6月末に施行が完了し、7月に工事検査が合格しました。



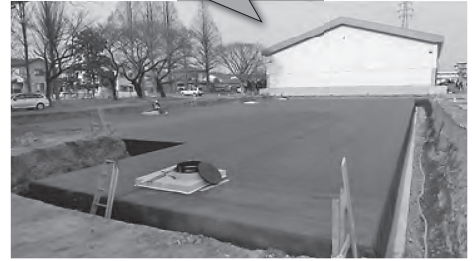
▽工事の前



▽グラウンドの下にある雨水貯留施設



▽工事の後



さんぺい武後援会は応援しています!!

茨城5区 国民民主党 衆議院議員

浅野さとし

**信頼と責任。
変革への挑戦!**



仕事の不満や不安、悩まないでお電話を

パワハラ・解雇・雇止め・賃金未払い…

仕事のことで悩んだら相談しよう!

なんでも

無料

労働相談



0120-154-052

連合茨城

ハーフタイム

NPO 法人日本トイレ研究所が、子どもの排便実態把握を目的に小学生12,307人、中学生1,258人の7日間の排便記録を調査した結果、便秘が疑われる児童は小学生の26.3%が早期の対策が求められると発表しました。7日間のうち「排便が2日以下」が小学生9.0%、中学生8.7%、「便秘傾向の硬い便が2回以上」は小学生17.8%、中学生9.2%、どちらかまたは両方に該当する児童は26.3%で3年連続で20%を超えています。子どもが便秘になりやすい契機として、入学による環境の変化や学校でトイレに行くのを避ける、学校のトイレの老朽化などが挙げられています。子どもの便秘は放っておくと悪化することもあるため、大人が早めに気づいて、ケアできる環境をつくる必要があります。腸内環境は食生活や運動、睡眠のほか、心の状態が大きく影響します。学校での日常は大人が思う以上にストレスを感じやすいのではないのでしょうか。「排便は恥ずかしくないこと」、身体と生活習慣について子どもと話し合う機会をつくってみてはいかがでしょうか。